

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600088		
法人名	社会福祉法人 立縫会		
事業所名	グループホーム 静妙庵	ユニット名	静けき邸
所在地	宮崎県日向市美々津町4083番地		
自己評価作成日	平成28年12月6日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&id=4590600088-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山に囲まれた静かな環境の中で、落ち着いたシニアライフステージを送っていただきながら、併設の特養やデイサービスを訪ねて兄弟や知人と触れ合ったり、地域の行事に参加して交流を楽しむことができます。敷地内の畑に散歩や歩行訓練がてら収穫にいき、季節の食物を食事の中で楽しむことができます。施設内でも歩行訓練を兼ねて1周回ることができて、隣の邸の方と会話を楽しんだり、お互いの状態観察を行って励ましあっています。散髪は、外部からきていただき、施設の中でパーマやカラーができることで利用者様の負担が軽減され大変喜ばれています。敬老会や花火大会・納涼祭りでは、家族と共に食事や行事を楽しんだり、定期的に遠足や外出も行い、気分転換を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいた介護支援を様々な場面で実践している。管理者と職員は、利用者一人ひとりが毎日をその人らしく暮らすため、ささいな気付きもすぐに話し合い、全員で統一した支援に取り組んでいる。利用者の言動に対しても、自分に置き換えて考えることで、利用者の思いをくんでいる。クロスワードやカラオケを趣味としている利用者があり、懸賞に応募するなど、楽しみごとへの支援もなされている。また、法人のデイサービス施設が敷地内にあり、地域の知人や友人と交流する機会もある。職員から、待つ介護は利用者の尊厳を守ることにつながるという言葉も聞かれ、日々の支援に配慮工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしいシニアライフステージ」をもって日々過ごせるように、毎日ミーティング後に全員で基本理念を読み上げ、確認し、個々の生活スタイルにあったサービスを提供している。		設立以来、法人の基本理念である「その人らしさの尊重」をケアの指針として、管理者と職員は利用者本位の支援を実践している。その中で、ホームの根幹となる独自の理念の創設に現在取り組んでいるところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はできていないが、併設の特養やデイサービスにて知人や地域の方と面会をされたり、地域の行事に参加することで交流を図っている。		地域の行事として「歩こう会」に参加するなど、地域住民との交流の機会を設けている。ホームで開催している茶話会にも、パンフレット等で呼びかけ、地域からも多くの人が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、施設見学や実習を受け入れることで認知症の方の生活や支援方法などを知っていく機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や利用者様の状態報告などを写真を使用して行ったり、防災や地域連携についての相談や助言をいただき、サービスの向上に活かしている。		毎回、意見や提案等が活発に出される会議となっている。討議された内容について、話合いの経緯や結果を次の運営推進会議で報告できるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、事業所の運営状況や活動状況についてアドバイスをいただいたり、不明な点については、電話やメールにて相談しながら協力関係を築く努力をしている。		運営推進会議等でホームに来訪した時に互いの情報を提供するなど、協力関係を構築している。また、メールを活用することで、いつでも連絡が可能となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会に参加し、正しく理解している。現在、身体拘束を行っていない。		研修会や勉強会において、どのような言動が拘束にあたるかを職員は理解している。家族から安全のためにベッド柵を使用したいとの希望があったが、弊害を丁寧に説明し、理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について、研修会に参加することで正しく理解し、虐待の早期発見や虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会をもっているが、今後も継続して勉強会を行い、熟知していく必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族にわかりやすく説明し、疑問や不安な点がないかを確認している。面会や電話などでも不明な点はないかを確認し、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や外部の方へ施設での活動や取り組みがわかるように定期的に「静妙庵便り」を発行し、回覧しやすい場所に掲示している。また、面会時や運営推進会議にて要望や意見をいただき、信頼関係を大切にしている。		来訪時やホーム便りにて利用者の近況を伝えている。遠方の家族には、ホームでの様子を伝えるために、動画を送るなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議や全体会議、朝のミーティングなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、通常業務でも気づいたことを何でも言える雰囲気作りに努めている。		職員会やミーティング時に気づいたことや意見などが多く出される。新人職員からの視点で、車いす使用時に座布団がずれて危ないとの意見が出され、話し合った結果、滑り止めのある座布団へと改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の支援や面談、勉強会を行い、職員の向上心を高めたり、職場環境や条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての全体会議や研修復命発表、各委員会による勉強会や研修会を定期的に開催している。参加できなかった職員に対しては、議事録の閲覧により会議内容などを把握できるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム研修や認知症研修会に参加し、情報収集やサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接や入所以降、細かい声掛けや配慮を行い、安心して生活できるように努めている、また、本人の気持ちに寄り添い、話を傾聴し、これまでの生活に近い環境で生活できるように雰囲気作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や面接時に要望や不安に思われていることを聞いたり、入所時にも不安が取り除けるような関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族の状態を把握し、要望を基に必要としている支援について考え、できるだけ対応できるように他事業所にも相談などを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることを支援しながら、一緒に家事や料理をしたり、ともに助け合いながら生活している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会にきていただいたり、受診や本人の訴え時には、電話での対応や付添いなどで協力していただいている。施設の行事にも参加してもらい本人との関わりを大切にいただけるよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスや特養を訪問し、なじみの方との面会や家族に協力をいただき、いきつけの店での散髪、食事などをしていただいている。また、外出や受診の際には、自宅に立ち寄りなどして地域の方と会える機会を作っている。		会いたい人の名前を言う利用者もあり、以前の面会簿を調べて連絡を取るなど、家族や知人の協力も得ながら、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やリハビリ活動などに一緒に参加されている。外食や散歩の際も利用者様同士で声を掛け合い一緒に行かれている。ホールで動きがある際には、声をかけられている。			

自己	外部	項 目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、家族に状況を伺ったり、入院先に様子を伺うなどしている。再度、入所の希望がある場合は、相談や対応をしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや要望を各担当者や邸責任者を中心に把握し、その思いに応えられるように話し合い、家族に相談するなどして対応するように努力している。		自分の意思を表すことができる利用者にはしっかり耳を傾け、困難な場合は、表情や仕草から理解するよう努めている。職員は、利用者一人ひとりが納得できるような対応を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接や入所時、日々の中でこれまでの生活歴について利用者や家族に話を伺いながら、サービスの提供に生かして、入所後にも安定した生活が送れるよう観察に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に収集した情報や日々の中で気付いたことをミーティングや会議の中、連絡ノートで共有して全職員が状態把握できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議や毎日のミーティングで、利用者の思いや状況、家族の希望を邸責任者を中心に話し合い、意見を出し合いながら個人に合わせた対応を行うことで介護計画にも生かしている。		担当職員を中心に毎月モニタリングを行い、家族や本人の意見も反映した本人本位の計画書を作成している。状態の変化による見直しも適宜に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や業務日誌以外にも連絡ノートを使用し、気づきや本人の訴え、普段と様子が違うことなど、全職員が情報を把握できるようにしたり、朝のミーティングで気付いたことを報告し、話し合いながら介護計画の見直しに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、有償のボランティアサービスを利用したり、訪問診療や訪問美容サービスなどを利用している。また職員による病院受診送迎や付添いなど柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店街の方や病院、美容師さんとのつながりを大切にし、利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、かかりつけ医を受診することで継続的な医療を受けられるように支援している。受診時には、状態に応じて職員が付き添い報告したり、普段の様子を「お知らせ」にて記載し報告することで、かかりつけ医との連携をとっている。		受診は家族対応としているが、状態により職員が付き添うなど、安心できる受診体制を整えている。協力医の訪問も定期的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常に気付いたら看護師や併設の看護師に報告相談をしながら対応し、早期受診や健康管理に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、情報提供表を提出したり、直接職員が病院へ行き、普段の様子や状態などを細かく情報提供している。また、細目に面会を行うことで状態観察や退院のメドなどの情報を収集している。退院時には、カンファレンスに参加し、病院関係者との連携を図れるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、実施していないので、重度化した場合や緊急時の対応について入所時や面会のたびに定期的に家族の意向を伺い、当事業所でできることを説明している。家族の意向により必要があれば地域の関係者や事業所と連携を図り支援に取り組んでいる。		入居時に看取りは実施していないことを説明している。重度化した場合に向けての話し合いは、かかりつけ医や家族を交えて状態の変化があるたびに行っている。緊急時のマニュアルを現状に沿ったものとなるよう整備を行っているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、事業所内や法人内で定期的な訓練に参加し、緊急時の対応に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、法人内の合同避難訓練や防災避難訓練に参加し、避難場所や避難経路の把握を行っている。また、当事業所だけの避難訓練や防災機器取扱い訓練なども定期的に行っている。		法人全体での訓練、夜間を想定した訓練を行っている。また、防災機器やAED(自動体外式除細動器)の使い方を全員が習得できるよう訓練している。しかし地域への呼びかけがなされておらず、地域住民との協力体制が不十分である。	地域住民の参加を呼び掛け、協力体制の構築に向けて取り組むこと、また、火災だけではなく、様々な災害を想定した訓練を実施することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格に合わせた声掛けや対応を行っており、嫌がることは無理強いをせず、時間をおいて声掛けをしてみたり、排泄入浴に関して男性職員を嫌がる方に関しては、女性職員で対応している。		管理者と職員は、一人ひとりの生活歴や職歴を把握することで、利用者の呼び名や声掛けを全員で統一し、人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら訴えることができない方に対しても、本人が話しやすい雰囲気作りや環境作りに努めている。また、自己決定ができるように様々な選択ができるよう働きかける努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その人らしく生活が送れるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや整容ができるよう自分で選んだ服をきていただいたり、自分でできるところまでしていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限りの範囲で食事の準備や片づけをしていただいている。できない方に関しては、味見をしていただいたり、メニューに協力していただいている。		献立はその日の調理担当職員を中心に、利用者の希望も聞きながら当日に決め、利用者もできることには参加してもらい、一緒に準備、食事をしている。受診結果に配慮した献立もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェックし、記録している。足りない部分に関しては、補助食品や嗜好品で対応している。栄養バランスなど病院と連携して対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導にて口腔ケアが行えている。夜間は、入れ歯洗浄剤を使用し、清潔に保っている。必要時には、歯科往診にきていただき、口腔内洗浄や口腔ケアの仕方など、本人共々、指導していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄や記録にて排泄間隔やパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。本人の状態に合わせて誘導を行い、昼夜トイレ誘導が行えている。		体調に合わせ、夜間ポータブルトイレを使用する場合もあるが、ほとんどの利用者についてはトイレでの排泄を支援している。入居時におむつを使用していた利用者も、パターンを把握することで、リハビリパンツの使用となった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便ができるように水分補給運動を促したり、オリゴ糖やサツマイモなどの飲食物で対応し、個々の習慣や状態に合わせた予防や工夫に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を基本としているが、本人の希望や状態に合わせて実施している。無理強いをせず、時間をずらして声掛けを行ったり、清拭や更衣で対応するなど個々に合わせた支援を行っている。		入浴日の設定はしているが、利用者の希望を優先している。また、湯温の設定や同性による介助など、個々に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や心身の状態に応じて、本人のペースで自由に休息されている。ゆっくり休めるように定期的に寝具の交換や日光消毒、静かな環境作りに努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容が把握できるようにケース記録に処方された薬の説明書を綴じている。服薬内容が変更になった際は、連絡ノートやケース記録に記載したり、ミーティングで周知できるようにしており、症状の変化などの記載も行うようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やできることを活かし、家事や趣味などをしていただいたり、外出や買物で気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年に数回、遠方に遠足に出かけたり、本人の希望にそって家族に協力していただきながら外出支援を行っている。		天気の良い日にはホームの庭でバーベキューをしたり、弁当を作って敷地内で花見をするなど、利用者全員で戸外に出ている。日常の外出は、利用者や職員の良い気分転換となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の要望があれば、本人がお金を所持したり、使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や家族から電話連絡があった際に、本人に代わり話ができるように配慮している。手紙やハガキに関しても本人の希望に合わせて対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールや廊下・中庭に季節に応じた花を飾ったり、共同や個人で作成した作品を掲示している。清掃をこまめに行い、清潔で居心地よく過ごせるよう配慮している。		台所、食堂、居間が一体となっている。食卓の下には、個々に合わせて足置き台があり、壁には利用者の作品や季節の花、イベント時の写真が飾られ、和やかな雰囲気となっている。2か所ある浴室には普通浴と特殊浴の浴槽を設置しており、シャンプー等も個々の物が用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやソファにてゆっくり過ごせるようにしたり、気の合う方同士で話ができる雰囲気作りに努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、本人が使いやすいように配置している。		ユニットごとに、各居室には山の名前、鳥の名前の表札が掛けられている。テレビや仏壇、たんすなど、本人が使っていたものを持ち込んでもらい、安心して暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下は歩行しやすい幅で施設内を1周回れるようになっており、各自で歩行訓練ができる環境である。トイレも各邸に3つあり、本人の使用するトイレが決まっている。			